

# 事業報告書

令和5年度

令和5年4月1日～令和6年3月31日

社会福祉法人 わかば

そらのいえ保育園

# 令和5年度そののいえ保育園事業報告書

## 1. 保育事業報告

保育利用者状況について、1,2歳児はおおよそ定員を満たした在園児数を確保した。3,4,5歳児の定員は年間を通して各学年1~2名ずつの空き状況があった。在園児のほとんどは標準時間利用児であり、長時間保育となっている。月極の延長保育利用児は若干名だが、スポットでの延長保育を含めた全体の利用者数は前年度より約30%増加している。利用動向を注視し、保育士配置を検討する必要がある。今後も長時間保育を念頭においた環境整備や、育児家庭支援の更なる充実が重要と考える。

会計について、区の助成金を使用し、学校110番の設備を設置した。非常時での関係機関への通報や平時からの連携を図っていく。

感染症流行により今年度も地域支援活動を中止した。東京都サービス推進費の減収の状況から、活動費の活用が困難な状況である。しかし、育児家庭支援の高いニーズと、社会的意義の重要性を鑑み、活動の再開を積極的に検討する。例年受け入れている小中学生の職場体験も感染症流行により実施を見送ったが、児童館での育児講座を行うなど地域支援活動の一部は再開できた。地域支援活動利用者が本園の保育理念を理解した上で入園するなど、地域に園の方針や特徴を伝える効果も高いと考えている。保護者の保育体験は保護者からの希望が強く、コロナ禍以前とは形態を変えて実施した。保護者と連携し、地域に開かれた保育活動を実践することや職場体験を受け入れることは、職員にとっても保育活動の見直しや、職場の活性化にもつながる有意義な活動であることから、これらの活動も順次再開したいと考えている。

## 2. 保育内容

コロナ禍により外部講師による体育・絵画・造形等の活動や行事は引き続き、一部制限されたが、コロナ禍3年目という事で、見通しをもって変更計画を立てることができた。

幼児クラスを2クラス、乳児クラスを1クラスの縦割クラス構成を継続したが、コロナ感染拡大の時期には幼児クラスを5歳児1クラス、3-4歳児2クラスに編成しなおし、クラスの人数を減らして過ごした。

防災面では災害用トイレの体験や、アルファ米の喫食体験、起震車への乗車体験を園児と共に行うことができた。今後は引取訓練以外にも保護者が参加できる活動も視野にいれながら活動していく。

## 3. 保育活動

### (1) 保育園の運営

- ・所在地：東京都大田区大森中一丁目14番1号
- ・児童定員：84名
- 1歳児…10名      2歳児…14名      3歳児…20名
- 4歳児…20名      5歳児…20名

### (2) 開所時間

11時間開所保育時間：午前7時30分から午後6時30分  
延長保育時間：            午後6時30分から午後7時30分（月～金）

### (3) 閉所日

日曜日、祝日、年末年始（12/29～1/3）

### (3) 職員配置（令和6年3月1日現在）

常勤職員： 14名 園長（1）副園長（2）保育士（11）  
非常勤職員： 8名 保育士（5）保育補助（2）事務（1）看護師（0）  
嘱託職員： 2名 嘱託医（1）嘱託歯科医（1）

(4) 延長保育実利用児童数実績

4月：22人 5月：30人 6月：21人 7月：310人 8月：29人  
9月：25人 10月：26人 11月：41人 12月：45人 1月：41人  
2月：32人 3月：42人 合計：385人

#### 4. 保護者支援

(1) 保育体験・保護者会

例年、集団保育における子どもの様子を知り、園の保育内容の共通理解を図る目的で実施している一日保育体験だが、令和5年度はコロナ禍により、幼児クラスは時間を短縮、乳児クラスでは別室からの観察のみとするなど形態を変えての実施となった。体験した保護者からは大変好評で、工夫して体験をさせてもらえて良かった、卒園までに体験ができて良かった等、多くの喜びの声が寄せられた。

(2) 外部機関との連携

大田区子ども家庭支援センターや品川児童相談所との連携により、育児困難家庭支援の実施と、わかばの家等との連携により、配慮の要する児童の発達支援を実施した。

要支援児の個別計画の作成や実施や、加配職員を配置し、より良い支援体制整備に努めた。

また、児童発達支援事業所 にじのいえとの併用をしている園児について、月例会議を共催し、連携を深めながら保育にあたっている。

#### 5. 保健衛生

- ・園児定期健康診断 2回
- ・園児定期歯科健診 1回
- ・職員健康診断 1回  
(常勤職員・週労働時間30時間以上の非常勤職員)
- ・職員インフルエンザ予防接種 1回  
(常勤職員・週労働時間20時間以上の非常勤職員)
- ・調理員腸内細菌検査 12回
- ・園児身体測定 12回

#### 6. 防災安全

- ・避難訓練 12回
- ・消火訓練 12回
- ・引き取り訓練 1回
- ・水害訓練 1回
- ・通報訓練 6回
- ・防災設備等の保守点検
- ・消防署への協力、報告
- ・自主点検
- ・法定点検
- ・非常用飲料水、食糧の確保、点検、喫食

- ・防災士による防災対策職員研修
- ・職員による定期的な（月2回程度）災害用伝言ダイヤルの活用訓練

## 7. 給食

- ・1～2歳児 午前おやつ、昼食、午後おやつ
- ・3～5歳児 昼食、午後おやつ
- ・延長児 補食
- ・アレルギー児（宗教等家庭的事由含）への除去食対応、代替食対応
- ・食育活動の一部再開

## 8. 年間行事

- ・コロナ禍での人数制限や開催方法の変更の一部を継承し、新たな形で行事を実施した。感染症の拡大状況に応じた開催ができるよう、予め計画したことで見通しをもった行事運営をすることができた。

## 9. 年間実施会議

- ・職員会議 月1回 園長・副園長・主任保育士・保育士全員
- ・チーフ会議 月2回 園長・副園長・主任保育士・チーフ保育士
- ・クラス会議 週1回 園長・主任保育士・担当保育士
- ・担当者会議 園長・副園長・主任保育士・担当保育士
- ・食育会議 月1回 園長・副園長・主任保育士・担当保育士・調理員
- ・保護者会 年2回 園長・副園長・主任保育士・職員・保護者
- ・個人面談 年1回 園長・副園長・主任保育士・職員・保護者
- ・法人理事会
- ・大田区私立保育園園長会

※保育体験 1人/日限定 形態を変えて実施した。

## 10. 職員育成

キャリアアップ研修の計画的受講や、モンテッソーリ教育の専門的知識習得のため多くの職員が自主的取り組みや、研修を通して保育士としてのスキルアップに努めた。法人内での合同研修も実施した。オンライン研修などもうまく活用しながら、園外研修、園内研修や、講演会への参加を通して、全職員に学びの機会が提供できたと考える。自主的研修費用の一部助成制度により、職員が自ら意欲を持って学ぶ環境を提供した。

## 11. 施設整備

- ・災害時食料、飲料の確保
- ・園舎の定期清掃
- ・事務所、倉庫、更衣室等の賃貸
- ・ホール、屋外広場の整備及び賃貸
- ・修繕

## 12. 資金収支

「令和5年度決算書」参照

# 事業報告書

令和5年度

令和5年4月1日～令和6年3月31日

社会福祉法人 わかば

みなまごめ保育園

## 令和5年度みなみまごめ保育園事業報告

### 1. 保育事業報告

大区立南馬込保育園の国立民営による民営化業務4年目の運営となった。

また、新型コロナウイルス等による感染状況を踏まえながら地域交流や子育て支援活動を企画し、実施した。

保育利用者状況について、幼児クラスでは若干名の欠員が生じたが、1,2歳児では、定員を満了した在園児数を確保した。また、在園児のほとんどが標準時間利用児であり、通常保育時間について保育の長時間化が見られた。その一方で、延長保育利用児と土曜保育利用児が少数であり、在宅勤務など就労状況の柔軟化と、勤務形態の多様化が目覚ましい。

会計について、豊かな保育実施のため、認可基準を上回る保育士数での運営中、人件費に注視した月次確認を実施した。中長期計画の積立金目標額には到達していない。人事勧告の増額分遡及に伴う施設持ち出しや、にじのいえへの拠点区分間繰入金、が、主な原因である。退職者が少なく、より一層の処遇改善を実施し、保育の質向上と、定着率の向上を図り、適正かつ潤沢な積立を行う。

地域支援、連携活動について、年長児の祖父母を園にお招きした「敬老のつどい」や、高齢者施設との交流活動、就学に向けた講演会、また、年長児を対象とした他園との交流会や小学校との連携活動を実施した。

昨年度より企画した「なかよし会」を実施し、月に1回程度近隣の公園で地域の子育て家庭や高齢者の方とのふれあい遊びを実施した。

小中学生の職場体験や、養成校の実習生を受け入れた。また、保護者の保育体験を実施した。

### 2. 保育内容

日々の保育のなかで子どもの気持ちに常に寄り添う事を心掛けながら保育にあたるよう努めた。年間計画に位置付けられる「全体の計画」や各指導計画を職員研修により周知、理解するよう努めた。見通しを持った計画的保育と、子ども達の育ちに応じたフレキシブルな保育を両立し、包括的かつ豊かな保育の実現を目指した。

運動会を3~5歳児の縦割りクラスで、入替制で実施した。1, 2歳児は、冬の保護者会でミニ運動会をグループ毎に実施した。

特に幼児クラスの運動会開催方法については、様々な意見があった。今後も、園方針と縦割りの有効性について、保護者理解を得ながら、より豊かな保育環境構築に努めていく。

### 3. 保育活動

#### (1) 保育園の運営

- ・所在地：東京都大田区南馬込4丁目6番5号
- ・児童定員：129名
  - 1歳児…25名      2歳児…25名      3歳児…25名
  - 4歳児…27名      5歳児…27名

#### (2) 開所時間

11時間開所保育時間：午前7時15分から午後6時15分

延長保育時間： 午後 6 時 15 分から午後 8 時 15 分（月～金）

年末保育：12 月 29 日、30 日（30 日は利用者なしのため休園）

(3) 閉所日

日曜日、祝日、年末年始（12/31～1/3）

(3) 職員配置（令和 6 年 3 月 1 日現在）

常勤職員： 21 名 園長（1）保育士（20）

非常勤職員：7 名 保育士（2）保育補助（5）

嘱託職員： 2 名 嘱託医（1）嘱託歯科医（1）

(4) 延長保育（1 時間平均利用児童数）

4 月：0.8 人 5 月：1 人 6 月：1 人 7 月：1 人 8 月：1 人

9 月：1 人 10 月：1 人 11 月：1.25 人 12 月：1.5 人 1 月：1.2 人

2 月：1 人 3 月：1

人

※2 時間延長平均利用児総数 0 人

#### 4. 保護者支援

(1) 保育体験・保護者会

1 日保育士として保育体験する活動を実施し、集団保育における子どもの様子を知り、園の保育内容の共通認識を図るよう努めた。

(2) 外部機関との連携

大田区子ども家庭支援センターや品川児童相談所との連携により、育児困難家庭支援の実施と、わかばの家等との連携により、配慮の要する児童の発達支援を実施した。

要支援児の個別計画の実施や、療育支援員を配置し、より良い支援体制整備に努めた。

(3) 地域支援活動

区民センター高齢者施設との交流・他園交流・子育て講座・小学校接続連携活動・なかよし会の開催

#### 5. 保健衛生

・園児定期健康診断 2 回

・園児定期歯科健診 2 回

・職員健康診断 1 回

（常勤職員・週労働時間30時間以上の非常勤職員）

・職員インフルエンザ予防接種 1回

（常勤職員・週労働時間20時間以上の非常勤職員）

・調理員腸内細菌検査 12 回

・園児身体測定 12 回

#### 6. 防災安全

・避難訓練 12 回

・消火訓練 12 回

・引き取り訓練 1 回

・防災設備等の保守点検

・消防署への協力、報告

- ・自主点検
- ・法定点検
- ・非常用飲料水、食糧の確保、点検、喫食
- ・職員による定期的（月2回程度）な災害用伝言ダイヤルの活用訓練
- ・非常用電源の導入

## 7. 給食

- ・1～2歳児 午前おやつ、昼食、午後おやつ
- ・3～5歳児 昼食、午後おやつ
- ・延長児 補食
- ・アレルギー児（宗教等家庭的事由含）への除去食対応、代替食対応
- ・食育活動

## 8. 年間行事

- ・計画に基づき、行事を実施した。行事担当者を決め、前年度の振り返りと、保護者アンケートを参考により良い行事運営に努めた。
- 別紙「年間行事」参照

## 9. 年間実施会議

- ・職員会議 月1回 園長・保育士全員
- ・リーダー会議 月1回 園長・主任保育士・副主任保育士
- ・クラス会議 週1回 主任保育士・担当保育士
- ・担当者会議 園長・主任保育士・担当保育士
- ・給食会議 月1回 園長・主任保育士・担当保育士・調理員
- ・個人面談 年1回 園長・職員・保護者
- ・保育体験 1人/日限定 保護者希望参観
- ・法人理事会 理事長が召集・理事、監事
- ・大田区私立保育園園長会 年11回 園長

## 10. 職員育成

キャリアアップ研修の計画的受講や、モンテッソーリ教育の専門的知識習得のため多くの職員が自主的取り組みや、研修を通して保育士としてのスキルアップに努めた。その他、園外研修を実施した。今後自主的研修費用の一部助成制度の奨励により、職員が自ら意欲を持って学ぶ環境を提供したい。

## 11. 施設整備計画

- ・災害時食料、飲料の確保
- ・倒木危険樹木の剪定
- ・園庭日除けターフの設置
- ・園舎の定期清掃
- ・園舎、家具、教具の消毒

## 12. 資金収支

「令和5年度決算書」参照

# 事業報告書

令和5年度

令和5年4月1日～令和6年3月31日

社会福祉法人 わかば

児童発達支援事業所 にじのいえ

# 令和5年度 児童発達支援事業所 にじのいえ 事業報告書

## 1.事業報告

令和4年10月1日に新規開所し、契約児童数8名からのスタートとなったが、徐々にその数は増加し、令和5年度は13名での開始となった。その後も契約児童数は増加し、8月には契約児童数は定員の8割に達したが、体調不良や幼稚園、保育園行事に伴う欠席などにより、出席率は8割弱と低く、結果的に利用率が6割台に留まったまま推移した。

療育内容については、にじのいえでの基本の生活が整い、屋外遊びや水遊び、園外保育、そらのいえ保育園との合同音楽会開催など、年間を通じて行事を含めた充実した活動を展開することができるようになった。また、昨年度得た森村豊明会からの寄付金により、室内に感覚運動遊具を設置することができ、認知機能のみならず、感覚運動機能にも働きかけができるようになった。保護者支援としては、ペアレントトレーニングを含めた個別相談を家庭につき、おおよそ月1回の頻度で積極的に行った。

また、今年度、新たに東京都の安全対策費として200万円を得ることができ、入り口前にフェンスを設置することができた。これにより、登降園時の安全確保と共に、屋外スペースを活用し更なる活動の充実を図りたい。

## 2.事業所の概要

事業所の所在地	東京都大田区大森中1丁目14番2号
事業所の電話番号	03-3764-0223
利用定員	一日につき10名
主たる対象者	重症心身障害以外の障害児
サービス提供地域	大田区 ただし、実施地域外でも受け入れる場合がある

## 3.営業日

営業日・営業時間	月曜日から金曜日、ただし、祝日、事業所が定める春季、夏季及び年末年始の休日を除く 9:00~17:00 ただし、12:45~13:45を除く
サービス提供時間	9:30~17:00 ただし、12:45~13:45を除く

#### 4. 職員の体制（令和6年3月31日現在）

管理者 1名（機能訓練担当職員（心理）兼務）  
児童発達支援管理責任者 1名  
保育士 常勤2名、非常勤2名  
機能訓練担当職員（心理） 常勤1名（管理者 兼務）、非常勤1名

#### 5. サービスの内容

個別支援計画を作成し、日常生活における基本的な動作の獲得、集団生活への適応を目標とし、下記のプログラム、その他必要な支援を提供した。

##### ① 小集団グループ

（対象：おおよそ3歳～就学前、定員：6名～10名、親子分離グループ）  
縦割りのグループ編成の中、ひとり一人の自主活動を大切にしながら、友達やスタッフとの自然なかかわりの中で、コミュニケーションの力や社会で生きていくための力を身につけることを目標とした。

##### ② 親子グループ

（対象：1～2歳児親子、2組、親同席）  
ペアレントトレーニングと育児相談を主な目的とし、親子グループを実施した。2組の親子が参加し、親子自由遊びの場面に保育者が介入しながら、そのねらいを共有し、日々の育児に反映していただくように取り組んだ。

##### ② 個別療育

（対象：小集団または親子グループに通所している児童、保護者同席）  
アセスメントに基づき、ひとり一人の課題に応じたプログラムを行った。

#### 6. 保健衛生

- ・職員健康診断 1回（付加検診の奨励と、費用負担）  
（常勤職員・週労働時間30時間以上のパートタイム職員）
- ・職員インフルエンザ予防接種 1回
- ・感染症拡大防止対策

#### 7. 防災安全

- ・避難引き取り訓練 令和6年3月 実施
- ・自衛消防訓練 令和5年9月、令和6年2月 実施
- ・防災設備の保守点検
- ・消防署への協力、報告
- ・自主点検
- ・法定点検
- ・非常用飲料水、食糧の確保、点検

#### 8. 年間会議予定

- ・月例会議 月1回 実施  
参加者：管理者、児童発達支援管理責任者、常勤職員
- ・特別支援会議 月1回 実施  
参加者：管理者、児童発達支援管理責任者、常勤職員  
（そらのいえ保育園合同）
- ・虐待防止・身体拘束適正化委員会 令和5年6月、11月 実施

参加者：管理者、児童発達支援管理責任者、常勤職員、非常勤職員

## 9.職員育成

- ・全体研修会
- ・モンテッソーリ教育研修、学会
- ・児童発達支援地域ネットワーク会議
- ・東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会
- ・大田区社会福祉協議会
- ・外部研修
- ・モンテッソーリ教育ディプロマ取得奨励に伴う制度
- ・自主研修制度

## 10.職員福利厚生

- ・福祉医療機構退職金共済加入
- ・職員処遇改善費の支給
- ・付加健康診断費用の負担

## 11.施設整備

- ・フェンス設置工事
- ・防災設備、備品の確保
- ・園舎の定期清掃・美化

## 12.資金収支

- ・「令和5年度決算書」参照